われわれは遺族の相互扶助、道義の高揚につとめ、平和日本建設に寄与し、戦争の防止、世界恒久平和の確立を期するを信条とする。

いさお新聞

発行所　〒703-8272
岡山市中区奥市3-22　岡山県遺族連盟
電話代表　086-271-7175
ＦＡＸ　086-271-4815
郵便振替岡山01230-9-3532
発行責任者　岸本清美
編集責任者　豊島始男
印刷所　西尾総合印刷株式会社
定価（郵税共）年額1,200円
ホームページ http ://izoku-okayama.jp/

平成25年度県連盟女性部研修会

向島の連合軍捕虜収容所跡を訪問

岡山県遺族連盟女性部は十一月二十八日㈭、平成二十五年度第一回目の研修会を福山市・尾道市向島方面で実施した。

研修会では「孫、曾孫の組織化」など組織の継承問題などについて意見交換を行うと共に、備後護國神社、向島にある連合軍捕虜収容所跡の記念碑に参拝した。

研修会に参加した女性部の皆さん（備後護國神社）

岡山県遺族連盟女性部の第一回研修会には、県下各遺族会の女性部長ら四十名が参加。朝九時、バスで岡山駅西口を出発した一行は、最初の目的地である福山市の備後護國神社へ向かう車中、日本遺族会女性部研修会（十一月十八・十九日）で協議された「孫、曾孫の組織化」について報告説明を行うと共に意見交換を行った。

午前十時過ぎ、福山城に隣接する備後護國神社（江種宏之宮司／全国護國神社会会長）に到着。県下女性部員から寄せられた千羽鶴を奉納後、同神社のご奉仕をいただいて正式参拝を行い、社に鎮まる三万千四百余柱の御霊の冥福をお祈りした。

護國神社を後にした参加者は、しまなみ海道を渡って生口島の耕三寺に参拝し、午後、向島にある連合軍捕虜収容所跡の記念碑（メモリアルプレート）へ。急な訪問にも拘わらず、記念碑設立時に向島町長を務められていた現尾道市議会議員の杉原孝一郎氏、ボランティアガイドの小林晧志氏のお出迎えを受け、プレート設置の経緯などの説明をいただいた。

収容所の跡地は現在、スーパーマーケットになっており、プレートの記念碑はスーパー前の道路に平行して二つ並んで設置されていました。一つは米国兵のもので、米国兵一名の名前と収容所の概要が、もう一つは平成十四年に設置された英国兵のプレートを移設したもので英国兵二十三名の名前と慰霊の言葉が刻まれています。しかし、赤レンガで造られていたという収容所の建物はすべて撤去されており、当時を偲ぶ面影はこのプレートの記念碑のみとなっていました。

ご案内いただいた杉原さん（上）と小林さん（下）

杉原、小林両氏から説明いただいたメモリアルプレート設置の経緯は次のとおりです。

―先の大戦当時、東南アジア各地から多数の連合軍捕虜が日本に移送され、全国に百三十カ所に及ぶ捕虜収容所がありました。捕虜は主に炭鉱や造船所、工場で運搬などの労働に従事。収容所の建物は九十五年前の明治期に織布工場として造られましたが、昭和三年頃に海軍に借り上げられ、戦時中の昭和十七年十一月から終戦までは捕虜収容所として使用。その間、インドネシア、フィリピンから移送された英米連合軍捕虜約二百人、撃墜されたB29の乗組員十名が収容されていました。

そして、終戦後の昭和二十三年からは再び向島紡績の工場として使われていました。

平成十年、英国から元捕虜と遺族が向島を訪問。それから毎年、訪問団が来られるらしいとのことから、収容所で亡くなられたイギリス軍捕虜二十三名のメモリアルプレートを造ったらどうかという話が浮上。関係者をはじめ広く一般の人から寄付を募り、向島紡績の協力のもと平成十四年、建物の赤レンガの壁にプレートの記念碑が取り付けられました。

プレート設置後、アメリカ軍捕虜一名も病気で死亡していることが判明。その米国兵の名前もプレートに追加したいとの構想がありましたが、平成二十三年、向島紡績の廃業に伴いプレートを撤去せざるを得ないことになりました。建物の赤レンガは「近代産業遺産

スーパーマーケットの敷地内に建立されているメモリアルプレート（尾道市向島）

であり保存すべきだ」との声もありましたが、諸般の事情から昨年六月に解体・撤去されました。

しかし幸いにも、跡地を引き継いだスーパーのご厚意により敷地の一角を無償貸与してもらえることになり、これを機にプレート設置の機運が一気に高まり、向島紡績の廃業から一年三カ月を経て新たなプレートが完成、今年、平成二十五年四月の除幕式典に至った―。

プレート設置に尽力された元向島町長・杉原氏によると、宗教や憲法の絡みから難しいことがあったとのこと。しかし、設置の際は米軍岩国基地の司令官、英国総領事のほか、尾道市や地元関係者、向島の小学校の生徒ら約百二十名が参列し、盛大な式典となったとのことです。

また、ボランティアガイドの小林氏は「平成七年に元英国兵捕虜とその遺族が広島の平和公園を訪問した際にガイドを務めたのが縁で、以来十八年間、捕虜関係者の案内を続けてきました。元捕虜の訪日の動機は『戦時中に強制労働をさせられた日本には二度と行くまいと思っていた。しかし、戦後日本がどのように変わったか、死ぬ前に一度自分の目で確かめたかった』ということでした。

そして、帰国後、彼らから届いた手紙には『日本人は親切で、日本の旅は素晴らしかった。終戦以来、私に取り付いていた悪夢を払い除けることができました』という内容で、私がボランティアガイドを続けてこられた大きな理由です」と元捕虜や遺族との交流を続けている経緯を説明いただいた。そして「関係者以外、団体で祈念碑に参拝していただいたのは皆様が初めてで、とても感激しています」とのお言葉もいただきました。

先の戦争で日本と英米は敵として戦いましたが、国が違っても父ら肉親を亡くした遺族の思いは皆同じです。杉原様、小林様をはじめとする関係者の皆様方の志に心から感謝申し上げ、あらためて「二度と戦争はしてはならない。私たちのような遺族を二度とつくってはならない」という遺族会発足の初心を噛み締め、研修会を終えた。

謹哀悼

近常寧氏

前岡山県遺族連盟会長
前岡山市岡山遺族連合会会長

湯浅正敬氏

前岡山県護國神社宮司

岡山県遺族連盟の青年部長、会長として遺族運動と会運営にご尽力をいただいた近常寧氏は、病気療養中のところ薬石効なく、十一月二十六日早朝、岡山済生会病院で逝去された。享年八十歳。葬儀は二十八日に赤磐市下市の「さくらホールあかいわ」で執り行われた。喪主は長女の矢野公美子氏。

また、十二月七日夜、岡山県護國神社の前宮司でご英霊の慰霊顕彰に挺身いただいた湯浅正敬氏が逝去された。享年八十八歳。

葬儀は十日に津山市小田中の「津山総合斎場」で執り行われた。喪主は長男の湯浅敬弘氏。

謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご生前のご功績を偲び、会員一同心から哀悼の意を表します。

みんなで靖國神社に
参拝する国会議員の会

靖國神社秋季例大祭期間中の十月十八日、「みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会」で参拝した二百二十三人の衆参国会議員は次のとおり。

（党派別、敬称略）

◎議員本人参拝

▼衆議院

【自民党】逢沢一郎、青山周平、秋葉賢也、秋元司、穴見陽一、池田佳隆、石川昭政、井上信治、井上貴博、井林辰憲、上杉光弘、うえの賢一郎、衛藤征士郎、江藤拓、大串正樹、大塚高司、小里泰弘、鬼木誠、梶山弘志、勝沼栄明、**加藤勝信**、加藤寛治、金子恭之、川田隆、菅家一郎、木内均、城内実、北村茂男、北村誠吾、熊田裕通、小島敏文、小松裕、今野智博、斎藤洋明、坂本剛二、桜井宏、佐々木紀、左藤章、塩谷立、島田佳和、新谷正義、瀬戸隆一、高市早苗、高木毅、高鳥修一、武井俊輔、竹下亘、竹本直一、田中英之、田中良生、田野瀬太道、田畑裕明、津島淳、土屋正忠、冨樫博之、とかしきなおみ、豊田真由子、永岡桂子、長坂康正、中谷真一、中村裕之、中山泰秀、西川京子、西川公也、根本幸典、**橋本岳**、浜田靖一、原田憲治、原田義昭、平井たくや、平沢勝栄、福山守、藤丸敏、細田健一、堀内詔子、松本洋平、三ツ林裕巳、宮内秀樹、宮川典子、宮澤博行、宮路和明、務台俊介、武藤貴也、武藤容治、森山裕、保岡興治、簗和生、山口俊一、山口泰明、山田賢司、山本有二、湯川一行、渡辺博道

【日本維新の会】井上英孝、上西小百合、遠藤敬、河野正美、坂元大輔、椎木保、杉田水脈、園田博之、高橋みほ、田沼隆志、中丸啓、西田譲、西野弘一、平沼赳夫、藤井孝男、松田学、三宅博、村岡敏英、山田宏

【生活の党】鈴木克昌

【新党大地】鈴木貴子

▼参議院

【自民党】赤池誠章、**石井正弘**、磯﨑仁彦、井原巧、岩井茂樹、岩城光英、宇都隆史、江島潔、衛藤晟一、太田房江、**尾辻秀久**、北村経夫、小坂憲次、酒井庸行、佐藤信秋、佐藤正久、島田三郎、塚田一郎、中泉松司、中曽根弘文、中西祐介、長峯誠、野村哲郎、橋本聖子、馬場成志、藤川政人、堀井巌、舞立昇治、松村祥史、松山政司、三木亨、**水落敏栄**、三宅伸吾、山谷えり子、山本順三、吉田博美、若林健太

【民主党】小見山幸治、羽田雄一郎

【日本維新の会】儀間光男、中山恭子

【みんなの党】江口克彦、和田政宗

◎議員代理参拝

▼衆議院

【自民党】赤澤亮正、あかま二郎、**あべ俊子**、石破茂、今津寛、今村雅弘、江渡聡徳、遠藤利明、大見正、奥野信亮、小渕優子、金子一義、神山佐市、亀岡偉民、神田憲次、岸信夫、木村太郎、國場幸之助、佐田玄一郎、塩崎恭久、鈴木淳司、田中和徳、棚橋泰文、谷川弥一、土屋品子、東郷哲也、中谷元、二階俊博、西村明宏、西村康稔、丹羽秀樹、野田聖子、葉梨康弘、林田彪、福井照、福田峰之、藤原崇、古川禎久、保利耕輔、町村信孝、松本純、三ツ矢憲生、御法川信英、山本公一、山本拓

【日本維新の会】今村洋史、岩永裕貴、重徳和彦、松浪健太、三木圭恵

【無所属】阿部寿一、伊吹文明、中村喜四郎

▼参議院

【自民党】青木一彦、有村治子、石井浩郎、大家敏志、大野泰正、金子原二郎、木村義雄、関口昌一、滝沢求、豊田俊郎、三原順子、山本一太

【日本維新の会】片山虎之助

西部ニューギニア地域慰霊友好親善訪問
追悼のことば

岡山市北区杉谷
秋山裕子

憲忠院英勇義仁居士
父上、秋山英一様、娘の裕子です。今、長年の念願でありましたパプアニューギニアの地に立っています。まさか、ここまで来れるとは夢にも思っていませんでした。日本遺族会、岡山県遺族連盟、トップツアー、インドネシアの皆様方のご尽力により実現しました。感謝しています。

父上が出生された時、私は母のおなかの中で七カ月でしたが、そろそろ七十歳が来ようとしています。父上は思いもよらず南方へ送られ、苦しみ抜いて、ジャングルの木々の露のように散ってしまわれました。蛇やトカゲに飛びつき、泥水を飲みながらの苦しい戦い。〝生きて帰れぬニューギニア〟と歌にまで唄われていたと聞いて胸が張り裂けるような思いでした。父上様たちのお陰で日本国民は今、とても幸せです。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

故郷の杉谷の山々や坂道、小川のせせらぎは、父上が二十七年間過ごした頃とあまり変わっていません。只、観光バスが通る位、道は広くなりました。近くに岡山空港が出来て岡山市内へも車で十五分位です。小さいながらも殆どの人が車を持っています。携帯電話も持っています。でも、お金もいっぱい要ります。お宮もお危神様も昔のままで、時々お祭りもありますよ。

私は養子さんを迎えて二人の子供に恵まれました。息子たちは下足守で五人家族です。名前は英俊。小さい頃、近所のおばちゃんに「英ちゃんに似ている」と云われたことがあります。娘は実香です。まだ片付いていません。どこか見つけてやって下さい。

西部ニューギニア巡拝団の皆さん
(秋山さんは前列中央)

本谷の集落は今十二軒。肩を寄せ合い静かに暮らしています。我が家も形は昔と変わっていません。改築はしていますが、本宅、納屋、土蔵は昔のままです。土蔵は窓を開けて犬小屋にしています。ダルメシアンという白黒の水玉模様の大きな犬がのんびり暮らしています。

父上もご存じと思いますが、吉備津神社の近くに小さい家を建てました。吉備津駅にとても近くて便利です。吉備津と杉谷を行ったり来たりの生活です。車で十五分位です。

杉谷では、そろそろ稲が実り始めました。九月末には美味しいお米をお供えします。待ってて下さい。私たちも元気で暮らします。父上様、どうぞ心安らかに。

平成25年8月
故秋山英一の長女

―あとがき

涙と感動の十日間でした。まさか、西部ニューギニアの地に立てるとは夢にも思っていませんでした。若い頃、父と幼なじみだった近所のおじさんに、「裕ちゃん、お父さんの戦没地へ一度行きたいでしょう?」と云われたことを今でも覚えています。当時、その方も南方に居られたそうです。それが現実となり、一生に一度の大仕事を済ませたような感じです。

出発前日の八月十九日、靖國神社に赴き旅の安全祈願。全国の遺児十五名、日本遺族会から増矢団長と小松様ら総勢十八名の訪問団は、神社からいただいた御守を付けて翌二十日にインドネシアのジャカルタに向かいました。

西パプア州のジャヤプラ、マノクワリ、サルミ、ビアク…。亡き父の戦没地を巡る慰霊の旅が始まりました。父の足跡を辿りながらの慰霊祭は、サンゴ礁の美しい海岸であったり、草原であったり様々です。日本・インドネシア両国の国旗を掲げ、皆で協力して設営した小さな祭壇に生花、果物などをお供えし祖国日本に向かって祈りました。積年の思い、家族のことなどを亡き父に奉告し、終わりに〝ふるさと〟や〝里の秋〟を唄います。涙が込み上げてきます。感無量とはこのことを云うのでしょうか。

私の父の戦没地はマノクワリ東方沖に浮かぶヌンホル島です。残念ながら島へは渡れませんでしたが、日本遺族会のご配慮により、チャーターした飛行機で島の上空を旋回していただきました。

約五百mの低空飛行、六十九年前の激戦で傷めつけられた島は今、白いサンゴ礁とヤシの木の繁る美しい平和な島。お父さんはここで眠っている。

「裕子が来たよ。お父さん安らかに…。」

ビアク島内の西洞窟。洞内にボロボロに錆びたドラム缶が十缶ほどありました。何百人もの日本の兵隊さんたちが潜んで

吾々(われわれ)の神聖さがあります

海軍少佐　矢野徹郎　命
昭和十九年十二月七日
比島方面にて戦死
愛媛県越智郡津倉村出身
二十五歳

お便り有難う。お元気何よりです。愚生相変らずにて大空を翔けて居ります。

早いものです。一年余の歳月が流れました。大祭も近づく頃!肌寒い風の吹く頃は、常に駅伝のことを思ひます。日一日と風がつめたくなるに従って、練習も苦しくなって行った。山田は実に懐かしい土地です。一木一草、思出でないものはありません。宮川、御幸みち、塚山の下宿生活、山寮の思出、古市時代、親しき友。

友の姿を偲びつつ、弛みがちなる心を引締めてゆく。大空を翔ける心、既に何人かの屍をのり越へて来た。

日々の訓練は生命がけであります。訓練が生命がけであるだけに、戦友との結びは兄弟以上のものがあります。学生時代の様な子供の遊びの域を脱し、最早(もはや)大人の時代へ遷(うつ)らせます。

吾々の生活…飛行機に乗ったとき、全てを忘れることです。ここに他と異なる吾々の神聖さがあります。

今日は雨で飛行場のエンドがかすんでみえる。はるかに石の鳥居が寂(じゃく)として立ってゐる。

昨日迄立ってゐた幟もとりはらわれた。秋祭りも終った。

秋祭り　幟はためき虚空(こくう)高し

秋の空!なんと大きな心。大空に向って深い呼吸をしてごらん。身も心も清々しく、己の心も大空の様な偉大さをわきたたせる。急上昇するとき、淡雲がぐくっと顔前にせまる。操縦桿を右にとる。大きな円を画いて吾が飛行機はもとの姿勢にかへる。

なんとすばらしい生活ではありませんか。

「醜の御楯(しこのみたて)」

吾も亦　この鎮宮に祀れん日もあらんかと　宮造りしみじみ拝す
五尺の身　ありとあらゆる　力もて　尽しまつらん　醜の御楯は

いる所へ、米軍がガソリン入りのドラム缶に火を付けて投げ込んだとのこと。このような戦争は二度とあってはなりません。

多くの涙を流し、多くの思い出を胸に日本へ帰って参りました。父らご英霊の礎のうえに今の幸せな日本があります。日本はとても奇麗で素晴らしい国です。父たちに護っていただいた日本を大切にしなければいけません。

巡拝バスに向かって手を振ってくれた子供たち。そして、歌を唄って迎えてくれたジャヤプラの子供たち。一緒にダンスを踊って楽しい夜を共にしたビアクの子供たち。現地の人々の笑顔、人懐っこさ、親切。嬉しくて思わず握手してしまいます。インドネシアが大好きになりました。日々元気で過ごし、もう一度、パプアに行きたい！夢を持ちたいと思います。

「全国に十五人の兄妹が出来たよね！」と云って成田空港でお別れしました。一年後に靖國神社で再会予定です。今からとても楽しみです。

日本遺族会、岡山県遺族連盟、トップツアーの皆様方、大変お世話になりました。

ボルネオ・マレー半島地域慰霊友好親善訪問
追悼のことば

倉敷市矢部　小野　勇

お父さん。戦地でのお勤めご苦労様でした。もう六十八年になります。もっと早く、お父さんの元へ来たかったのですが遅くなってすみません。

〝行軍中にマラリヤに罹り途中で部隊と別れた〟と、お父さんと同じ部隊で帰還された戦友の人から聞いたと養父母が教えてくれました。私が大きくなってからのことです。お父さんの命日は昭和二十年五月一日となっています。それから約三カ月後の八月十五日は終戦です。あと少し頑張れば帰ってこれたかも分かりません。お父さんも残念だったと思います。私も残念です。これも運命でしょうか。

お父さんは、私と妹が生まれてからずっと戦地に行っており、私も妹もお父さんのことは写真でしか知りません。私が三歳、妹が二歳の時から、伯父さんと伯母さんに我が子のように大事に育てていただきました。二十歳になった時、伯父さんたちの養子になり、今は小野家を継いでいます。

二十三歳の時に結婚、三人の子供が出来ました。子供たちは皆、それぞれ家庭を持って孫も六人います。私も七十一歳になりました。もうこの地には来れないかも知れません。この地の景色や様子を目に焼き付け、胸に納めて日本へ帰ります。本当に長い間、ご苦労様でした。

―あとがき

父の眠る地で供養ができ、胸につかえていたものがすっと消えて楽になったような気持ちです。父のことは写真でしか知りませんが、日本を守るため、故郷遥か遠いこの地で戦った父を尊敬し誇りに思います。しかし、もう戦争は嫌です。父の温もりを知らなくても、父と私はやっぱり親子だと思いました。親子の絆を確認できた旅でした。

父上の慰霊祭に臨まれた小野さん（日本人合同墓碑）

お詫び

本紙十一月号（一一八二号）の岡山県戦没者遺族代表者大会の記事で、ご来賓の石井正弘参議院議員のお名前が掲載されていませんでした。ここに深くお詫び申し上げます。

遺族会の動き

平成二十五年十二月行事表

6日　浅口市郡遺族連合会女性部研修会（鴨方町内）
19日　全国戦没者遺族大会・国会陳情（自由民主会館）
24日　北方領土返還要求岡山県民会議幹事会（岡山商工会議所）
31日　大祓式、除夜祭（県護國神社）

平成二十六年一月行事表

1日　歳旦祭（県護國神社）
3日　元始祭（県護國神社）
5日　岡山市瀬戸遺族連合会護國神社正式参拝・新年互礼会（県護國神社）
11日　逢沢一郎年始会（Hグランヴィア岡山）
28日　石井正弘新年祝賀会（岡山プラザH）
29日　日遺支部事務局長会（旧九段会館）
30日　日遺支部女性部長会（旧九段会館）
新見市遺族連合会新年互礼会（新見市内）